

淑徳与野中学・高等学校 平成 27 年度 学校評価 報告書

平成 28 年 7 月 5 日
淑徳与野中学校
淑徳与野高等学校
校長 里見 裕輔

(1) 自己評価

平成 27 年 7 月に全校生徒に対して「授業アンケート」を実施し、その結果を各教科担当者が生徒に報告するとともに、各教科会で結果を分析し、授業に関して評価した。以下は各教科からの『授業アンケート結果報告書』の一部である。

国語：教科内の経年比較では、「効果」の肯定評価が徐々に上がっている一方、「開始・終了時刻」について、教科内では A 評価を毎年少しずつ上げているが、まだ他教科に比べて数値が低いので引き続き改善努力をしていきたい。板書にかかる時間を節約するための補助プリントを適宜用意したり、問題演習の解説授業では時間内で完結できるように授業計画を綿密に練ったりするようにしていくことが肝要である。

数学：前年に比べて熱意・ガイダンスの項目で評価を上げた。一方で板書・行動や説明の点で評価を下げている。これについては個々の技量を上げていくことに加え、教員の間で連携を多くとり、進度や指導法についての意見交換をさらに深めていくよう努力していく。

英語：中学生に対する指導を説明・板書などでも工夫する必要がある。中高ともに学習に対する効果が生徒はあまり感じていない傾向がみられるので、難易度・分量・考えさせる内容にすることで効果があがるように工夫したい。高校のオールイングリッシュの授業は、課題の内容・分量を再考したい。

理科：総合的な評価としては例年通りであったといえる。「ガイダンス」「効果」に関するポイントが向上している。「ガイダンス」を上手に行えば勉強の指針を示すことができ生徒も取り組みやすくなり効果が実感できたのであろう。来年度も引き続き実践していきたい

社会：肯定的評価の A,B 評価合計%が①～⑥の項目においては 80%を超えており、例年のレベルを維持した。しかし高校 1 年に比べ、高 2・高 3 の評価が下がっている。学年が上がり授業単位数が増え、また受験科目として内容も難しくなることを踏まえ、より教員の技量が問われることを自覚してさらに向上を目指す必要がある。

保健・体育：校舎移転により授業できる場所がかなり限られ、それに伴い各競技の内容も大幅に変更せざるおえない状況で非常に困惑した 1 年であった。狭いスペースの中で出来る範囲の運動ないようなので、生徒も思い切り体を動かすことができずに満足度が下がったと思われる。

芸術：例年のことであるが、効果の項目で評価が割れる傾向にある。正解の出る科目ではなく、授業の達成感を与えることが難しいとはいえ、できる限り、成果を感じられる授業をめざしたい。

技術・家庭：週に 1 度でなおかつ時間数が少ない授業もあったので、技能を伸ばすというのが、実感としても感じてもらえにくかったようだ。相変わらず「調理実習をいっぱいやりたい。」という意見は根強いので、その要望にも応えるべく、調理実習の回数は頑張って維持しようと思っている。社会に出て困らない技術等養っていければと思っている。

淑徳の時間：例年同様、中学・高校ともに高い評価を受けた。「淑徳の時間」は本校の「心の教育」に直結しているものであるから、この授業で高い評価、満足度が得られることは大変望ましいことである。押しつけではない心の教育この時間を通して実践できるようにしたい。

情報：新しい教室環境での授業となり、開始当初機械的なトラブルが多く授業に支障が出てしまった。そのような状況であったので、十分な説明などがうまく伝わらなかったものとする。次年度は環境をきちんと整備したい。

(2) 学校関係者評価

1. 学校関係者評価委員会の開催

(中学校)

日時 平成28年2月13日(土) 14時30分～16時

(高校)

日時 平成28年3月4日(金) 12時45分～13時45分

出席者 淑徳与野中学・高等学校後援会役員1名、高校保護者から10名、中学保護者から9名。副校長、教頭、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長が聞き手として発言内容を記録した。

2. 委員の主な発言内容

(よい点や評価できるところ)

- ◆ 高校移転は大変だったと思うが比較的スムーズにできた。
- ◆ 中高ともに面倒見がとてもよく、苦手な教科に対するフォローをしっかりとやっている。
- ◆ 成績に関係なくすべての生徒に対してよく見て頂いている。
- ◆ 中高が一緒になったことで特に中学生は高校生を手本にして生活出来るようになった。
- ◆ お互い切磋琢磨する環境が整っており、勉強は大変だが一緒にやることで乗り切っている。
- ◆ 学年を追うごとに評価が多少厳しくはなるが、全体的には肯定的な評価が多い。

(よくない点や改善すべきところ)

- ◆ 教員の交代が多く、落ち着かない学年があった。
- ◆ もう少し講座の選択肢を増やし、希望の講座を取れるようにしてほしい。
- ◆ 中学からの入学者を苦手とする高校の教員がいる。
- ◆ 高校校舎の冷暖房をうまく使いこなせていないところがある。
- ◆ 課題の提出に追われている。もう少し課題の内容などを見直してほしい
- ◆ 予習中心の方法を少し改めて、復習中心にして知識定着を図ってほしい。
- ◆ 教育内容を整え、進学実績がさらに上がる工夫をしてほしい。
- ◆ 中学生は高校生のアドバイスを聞ける機会を作してほしい。
- ◆ 下校時刻が時々変更されることがある。そういう時は早めに親に連絡してほしい。

(3) 第三者評価

1. 第三者評価の実施について

学校法人高宮学園代々木ゼミナール教育総合研究所に委嘱した。同研究所は平成27年6～7月にかけて全在校生の保護者に対して「学校評価保護者アンケート」を実施し、その結果を分析して評価した。

2. 評価結果の要約

中学・高等学校とも、本校の学習指導や進路指導に対する期待が高く、より一層の充実を望む声が寄せられた。具体的に項目に分けて要約すると次の通りである。

- ① 全体としては、良い結果であったが、得意の伸長と不得意克服とに分割した学習指導の項目は、後者でやや厳しい評価を受けた。この点に留意し、教科指導にあたる必要がある。
- ② 中学1年保護者について、留保回答が多くなった。アンケートの時期が1学期末ということもあるが、学級、学年、学校それぞれのレベルからの情報伝達の在り方を点検する必要がある。
- ③ 中学保護者の間で国公立大学進学志向が高まった。これは、高校に進級した一貫生1年生の保護者も同様であり、高入生にも見られる傾向である。これに対し、一貫性高校2，3年生の国公立志向は漸減している。学年が進むにつれて現実的な進路志望が考えられていることによるものと思われるが、進路指導の点において留意すべき事項である。